

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600063		
法人名	社会福祉法人つばさ つばさ同法人の障害者施設		
事業所名	共生ホームたけんこグループホーム		
所在地	〒298-0025 千葉県いすみ市山田5897番地		
自己評価作成日	兵士絵30年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在もほぼ満床で安定した入居状況にあります。入居者の介護度は現在2.2でホームでの家事的な役割のできる方が多くなっています。スタッフと共に洗濯物を干したり、取り込んだりたたんだりを毎日実施したり、居室や廊下を掃除したりしています。家族との関わりは定期受診の際、家族が実施し入居者との時間を過ごしております。日々の健康観察をし、健康管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「たけんこグループホーム」は見晴らしの良い丘の上に建っており、のどかな自然に囲まれた環境の中にある。併設のデイサービスセンターとは合同での行事開催や消防訓練を行う等、日常的な交流が盛んに行われ、入居者の生活活性化に繋がっている。また、運営推進会にてミニ勉強会・行事・食事会を同時開催する等、家族からの理解促進や出席率の向上に繋がるよう取り組んでいる。年3回の消防避難訓練では、消防署立会い訓練・地震想定訓練・併設施設との合同訓練等を行い、災害時の対応方法を確認している。また、救命救急講習やAEDの設置等、入居者の急変に備えた対策が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時には、説明を必ず実施するようにしています。更衣室ロッカーに名刺サイズで印刷し貼り、仕事始めには必ず読んでスタートしています。	「思いやりの心」を主眼とした施設理念を掲げている。理念は、事業所内や更衣室ロッカーに掲示し、理念に沿ったケアの実践に努めている。また、新人研修や現任研修、申し送り等を通して、理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件上、なかなか地域住民との交流は難しいが、地域のイベント、障害者施設、小学校行事に参加し、楽しい時間を共に過ごしています。	地域行事や小学校の収穫祭等への参加やボランティアの受け入れを行っており、日頃から地域とのつながりを大切にしている。また、同法人の障害者施設との世代間交流も行っている。他にも、施設の多目的ホールを地域の人に開放する等、地域貢献にも努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県福祉協会の研修事業を受け、共生ホームの状況等説明しました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、季節ごとの研修を取り入れホームで実施している。健康対策を家族と話し合うことができた。	運営推進会議は、市役所職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・家族・職員等が出席し、年6回開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換、ミニ勉強会等を行っており、施設理解やサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員から意見や新しい情報をいただき、いすみ市の取り組みを知ることができ、また、施設からの要望を伝え市から新たな情報をいただくことが出来た。	日頃から業務における相談や報告、運営推進会議等を通して連携を図っている。また、いすみ市外房連絡会に参加しており、意見・情報交換を行っている。その他、いすみ市主催のかかし祭りや椿祭りに、施設の作品を出展している。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議及びケア会議においてマニュアルについて説明した。 外部講師を招いて研修を実施した。	法人にて身体拘束排除委員会を設定しており、適切な対応や理解の浸透に取り組んでいる。身体拘束排除の内部研修を実施しており、職員へ周知徹底を図っている。入居者の安全や家族の要望に配慮し、玄関の施錠を行っているが、声掛けや見守り等を適切に行い、身体拘束のない自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員にセルフチェックを実施し、日々の利用者との関わりの中で身体的・精神的虐待が行われないように職員全員で確認した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種団体が実施する研修会へ参加し、制度理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時については事前に運営推進会議にて説明し具体的内容が明確になった際には文章にてお知らせする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議以外にも受信時の面会等ホームにご家族がいらしたときに意見を聞くようにした。	家族からは、来訪時や電話連絡・運営推進会議等を通して、意見や要望等を確認している。意見や要望については、会議や申し送り等で検討し、適切な支援や運営につなげている。毎月広報誌の「たけんこ便り」発行しており、入居者の活動や生活状況を写真も含めて伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回実施するケア会議、職員会議にて意見交換等ができるようにしている。	定期的にケア会議・職員会議・給食会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。また、OJT体制を導入し、職員個々のレベルに応じた育成を行っている。	会議議事録の訂正に、修正液が使用されている。今後、訂正があった際は、訂正印等を活用し、修正を加えたという証明と共に、誰が修正を加えたのかを明確にする等、記録に関するルールに従い、適正な記録・保管・ケアの反映に繋げていただく事を推奨します。」

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJTをと取り入れ、スタッフの業務への取り組みを把握している。又スタッフ間で声掛けしながら助け合いながら仕事出来る環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を自ら受講する様に働きかけている。又法人の研修会等に付いては多くの参加出来るよう呼びかけをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の参加をしながらネットワーク作りに取り組みが進んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所してから、少しずつ時間を共にしながら、ゆっくりと安心できる関係づくりに努めている。ホームの生活に慣れていただけるよう、安心して過ごせる様、声掛けしながら関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際に、ご家族との話し合いを十分に実施し、ご家族が安心して入居を決められる様に努めている。体験入所を取り入れ家族が安心して入所決定出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族と話し合い、ケアマネが優先順位を作り、介護プランを作成しながら実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、趣味や出来る事を把握しながら入居者同士助け合っています。共に環境整備を実施しています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族連絡を実施しながら、面会や外出の支援を実施しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくり出来るよう、また他の入居者の精神的部分を察し居室にて対応しています。	家族との外出や外泊を支援し、馴染みの関係継続に努めている。また、友人や知人との面会も随時受け入れている。希望に応じて、個別または少人数の外出を支援しており、馴染みの場所での楽しみを提供している。日頃から併設のデイサービスとの交流が行われており、馴染みの関係構築も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクを実施しながら、皆で助け合う事が出来る環境作りを実施しています。環境整備時には単独で無く複数で実施し仲間意識が確立できるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と会った時にはご挨拶や近況を確認し、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ずリビングで過ごすのではなく、ゆっくり居室で過ごしたい人には、居室で過ごせるようにしています。	入居前に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認していると共に、医療機関や他のサービス事業所から情報収集し、適切に情報を把握している。また、支援計画の更新時にも、意向や情報等を再確認している。情報については、会議や連絡ノートを活用し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネ等から情報収集し把握に努めています。又面会時等に家族とお話しし新たな情報収集で対応を取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個々の状態で、レクや食事等出来ることは本人に行ってもらようよう自立支援に努めています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	OJTを実施しリーダーにはケア会議の実施方法を指導し、適切なケア会議が行えるよう支援しています。	会議で支援内容を検討し、介護計画を作成している。定期的に介護計画の目標達成状況を確認しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。また、日頃から連絡ノートや会議等を活用し、情報や状況の確認や共有を図っており、現状に即した、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変化の大きい利用者に対し、介護支援経過表を使い、入居者の状況をスタッフで共有し介護支援に努めています。連絡ノートを活用し常に情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医院の導入や薬剤師の導入を実施しながら施設で出来ないサービスを実施している。又必要時には主治医の往診を受け入れ、安心できる様支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市が実施するイベント、法人内の行事など本人が楽しめるような行事には積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族が実施することが多いが、必ず連絡表を作成し、日々のバイタル表のコピーを持参して主治医に伝えた。	希望の掛かりつけ医への受診や歯科医の往診を支援しており、適切に健康管理を行っている。受診の際は、医療面に関する情報をまとめた記録を連絡票と共に持参しており、医療機関との適切な連携や情報交換に活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等が見られる利用者には施設内看護師と相談し、医療機関へつなげることができた。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの実施や病院に出向いての話し合いを実施して、より良い関係づくりに取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が高くなっている利用者のご家族との話し合いにて、家族負担を軽減するために特養へ繋げました。	契約時に終末期・重度化に関する施設方針を説明し、同意を得ている。必要に応じて、医師・家族と話し合いを行い、施設として出来る限りの支援が行えるよう体制を整えている。また、他のサービスや医療機関への切り替えが必要な場合には、スムーズに行えるよう、関係機関からの協力体制も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修会に参加可能のスタッフは参加して、救急時の対応を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	障害のグループホームと合同にて夜間火災発生時の避難訓練を実施しました。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、年3回の消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・地震想定訓練・併設施設との合同訓練等を行い、災害時の対応方法を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の今までの生活を理解し、人格を尊重し日々の生活を支援しております。	全職員への法人の心得を配布している。また、接遇やプライバシー保護の内部研修を実施しており、入居者の尊厳を大切にしたい支援に取り組んでいる。会議時には理念の再確認を行う等、職員の意識の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に日々の支援の中で、注意しながら実施を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のタイムスケジュールにこだわらず、本人の希望にそった支援を心掛けるよう努めています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が持参した衣服をスタッフが上手に合わせて着用できる支援を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人からリクエストをもらいメニューに取り入れ皆でお祝いました。おやつにはケーキを提供し、職員利用者全員でお祝いすることが出来た。	入居者の希望や身体状況に応じて、食事の準備から片付けまで職員と共同で行っている。昼食は近隣の障害者施設から提供されているが、それ以外は施設内で調理している。食事については、業者も活用しながら、職員が献立作成・食材の買い出し・調理を行っており、季節の食材や入居者の嗜好に配慮した食事を提供している。定期的に外食会や特別食の提供を行っており、食に対する様々な楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や食事量にあわせて、食事支援を実施しています。季節に応じ水分摂取等には厳しくスタッフが配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。立位の取れる方は必ず洗面所にて実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については利用者ごとに見守り、声掛け確認と個々の能力に応じた支援を心がけた。	入居者一人ひとりの排泄状況や水分及び食事状況を管理し、適切な排泄支援につなげている。必要に応じて医師・看護師と相談しながら排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に毎日のヤクルトを提供し、起床時には牛乳摂取し、日中活動として、散歩や体操を実施し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の順番は決めているがその時の状態に応じて変更して入浴している。	入居者の体調や希望に配慮し、柔軟に対応しながら適切な入浴の機会を設けている。必要に応じて、清拭・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の好きな人には、午睡を取り入れ、しない人はレクを実施して、自由にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指示の元間違いが無いように実施しています。服薬チェック表を記録し今年度2名で確認するよう変更した。体調の変化時にはお薬との関係はないかと看護師と検討しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとの支援は、日々実施に努めています。また役割については現在少しずつ出来る様になってきました。居室・廊下・リビングの環境整備や洗濯干し・洗濯たたみ等たくさんの仕事により日々楽しく過ごせる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に対する本人の希望把握は、難しい状況であるが現在一人ではあるが毎日戸外への散歩を実施しています。	日頃から散歩やドライブ等の外出を支援している。また、施設の敷地内や菜園等を活用し、日頃から外気に触れる機会を設けていると共に、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。併設のデイサービスとの交流や多目的ホールの地域住民への開放を通じて、入居者の生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買物に同行できる入居者は同行し、好きなおやつを購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許す限り電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次ぐ様に支援しています。また携帯電話の利用も出来るよう支援しています。手紙のやり取りは自由です。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中活動において利用者の作成する季節に応じた作品を施設内に展示する。	施設内は、バリアフリー環境となっており、入居者の安全面に配慮したつくりとなっている。共有スペースには椅子・テーブル・ソファが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。両ユニット間には多目的ホールがあり、ボランティアの発表や行事開催時に活用されており、楽しみの提供の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを設置し自由に座ってお話ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でテレビを見たり、読書をしたりして自宅での生活の延長となるよう支援しています。	馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できる様配慮している。布団を敷くことやテレビの設置等も可能で、入居者の生活歴・身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースが設置されており、プライバシーの確保がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援をめざし、危険のない限り制約せず生活できるよう支援しています。		